

## JST 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)により、中国同済大学の大学院生を受け入れました(2019/1/20-27)

テーマ：耐震工学

場所：東北大学災害科学国際研究所(宮城県仙台市)

2019年1月20日から27日まで、科学技術振興機構(JST)の支援によりアジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)を実施しました。本事業では、中国同済大学土木工程学院の大学院生を招聘し、日中学生交流セミナー、日中技術フォーラム(同済大学主催・東北大学災害科学国際研究所共催)、振動実験体験、東日本大震災被災地訪問を実施しました。

学生交流セミナーでは、日中の学生が各々の研究テーマについて発表し、意見交換を行いました。研究発表では、構造物の振動制御技術、構造ヘルスマonitoringに用いるセンサー、AIを用いた構造物の被災度判定に至るまで幅広いテーマが取り上げられ活発な討論が行われました。

日中技術フォーラムでは、山形大学の三辻和弥教授から免震建物のモニタリングについて、東北工業大学の船木尚己教授から流体ダイナミック・マスに関してレクチャーが行われました。

東北大学工学部建築附属実験所では、当研究所 災害リスク研究部門の五十子幸樹教授の指導のもと、セミアクティブダンパーを用いた鉄骨造試験体の計測制御実習を行いました。

2011年東日本大震災被災地訪問スタディツアーでは、被災したJR野蒜駅に設けられた震災伝承館を訪問した後、南三陸町において震災遺構として保存されている防災対策庁舎とその周辺で進められている災害復旧復興工事の様子を見学しました。

一週間に渡る訪問で、同済大学の学生達は多くの学術・技術に関することを学ぶと共に、日本文化への理解も深めることができたとのこと。また、日中学生の交流は、日中の学生双方にとって非常に良い刺激になったようです。



日中学生交流セミナーでの討論



セミナーを終えて講師の先生方と



振動実験体験



被災地訪問(南三陸町)

文責：五十子 幸樹(災害リスク研究部門)